

経営比較分析表（令和2年度決算）

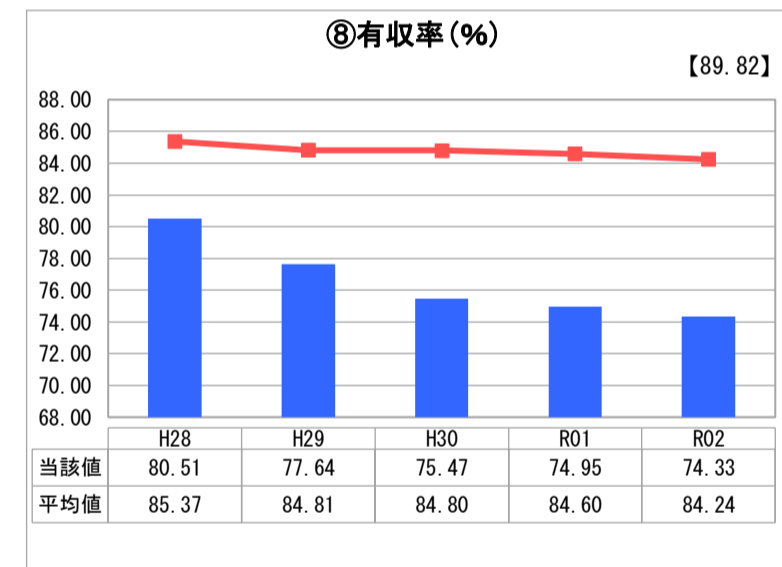
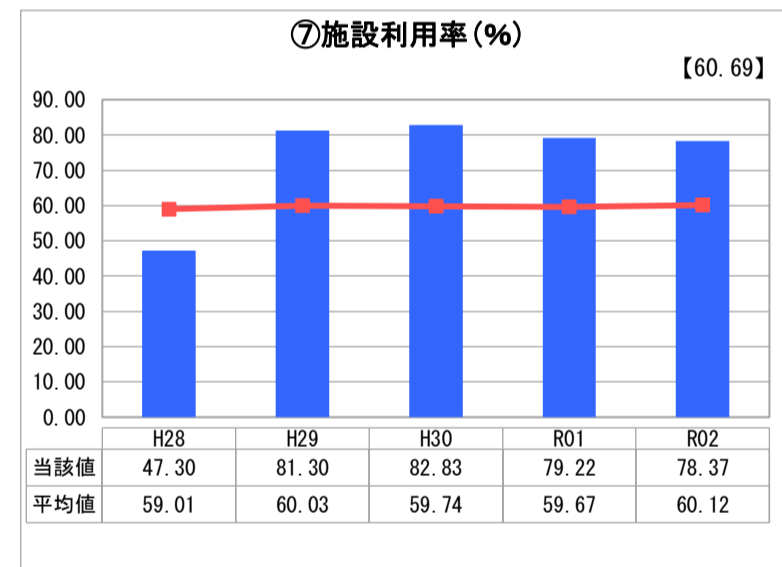
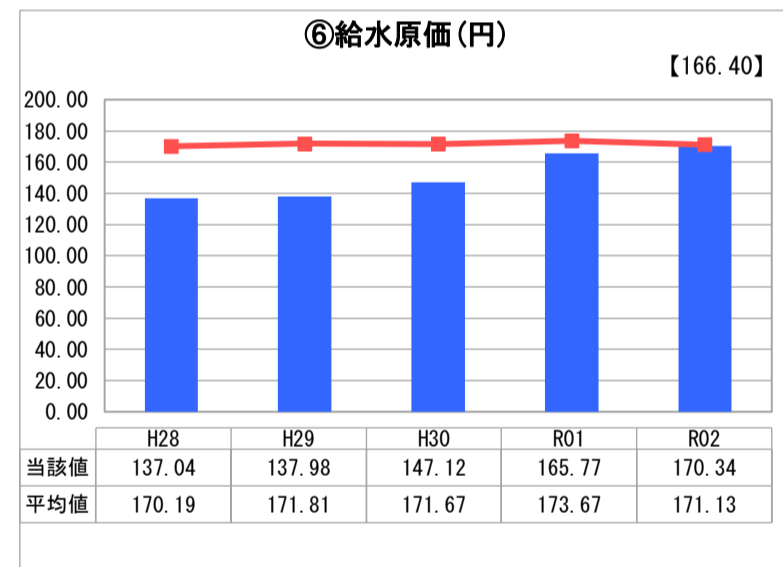
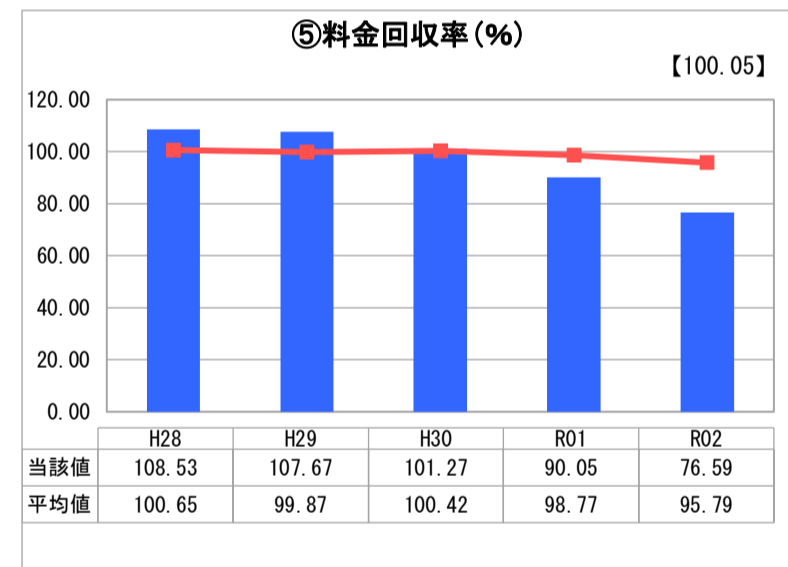
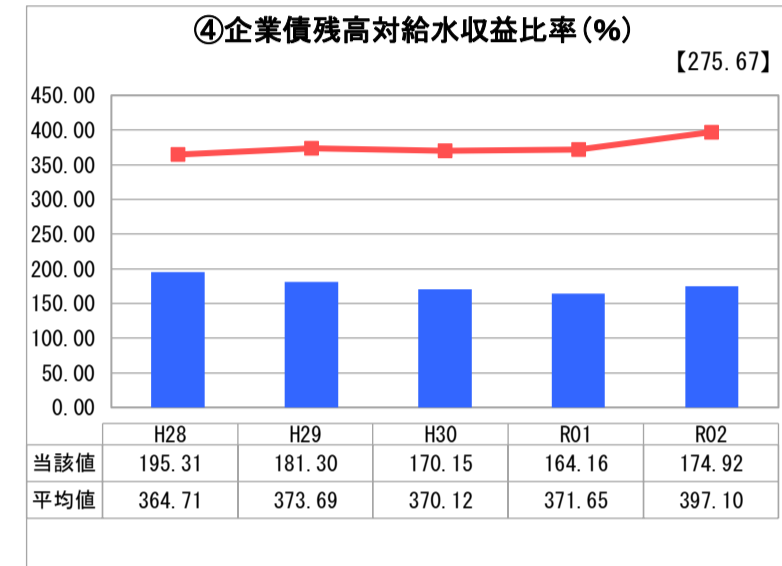
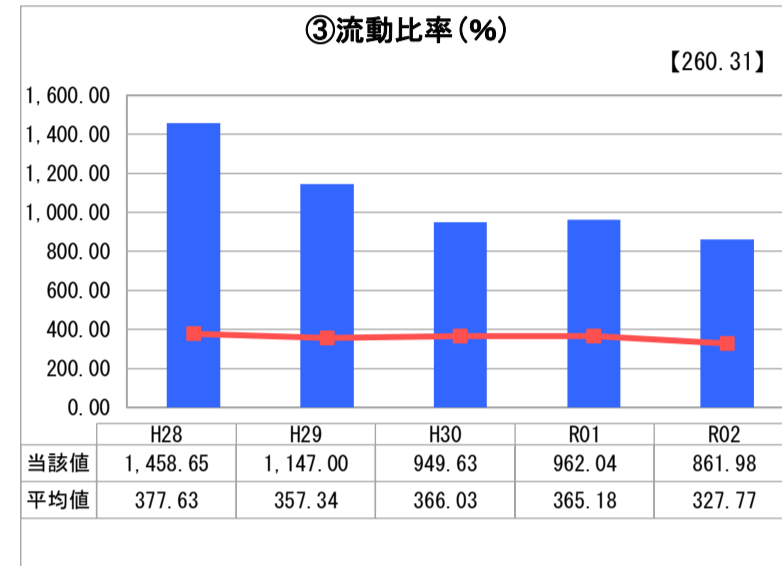
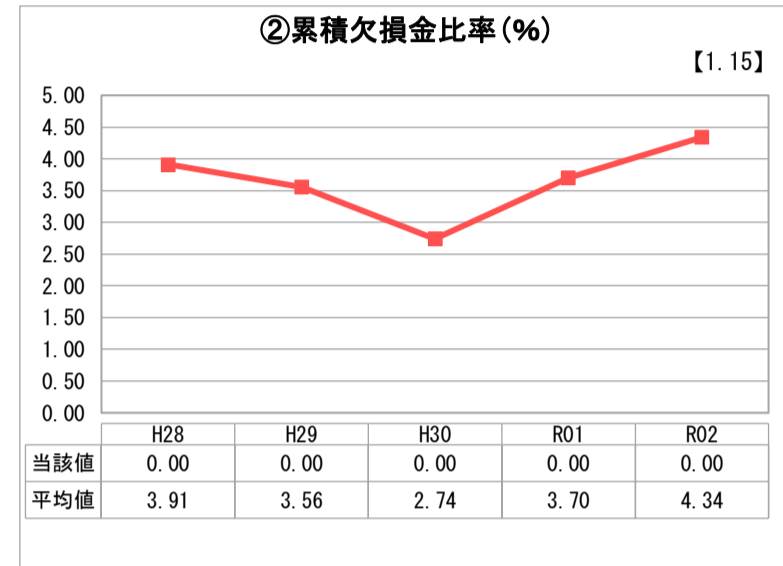
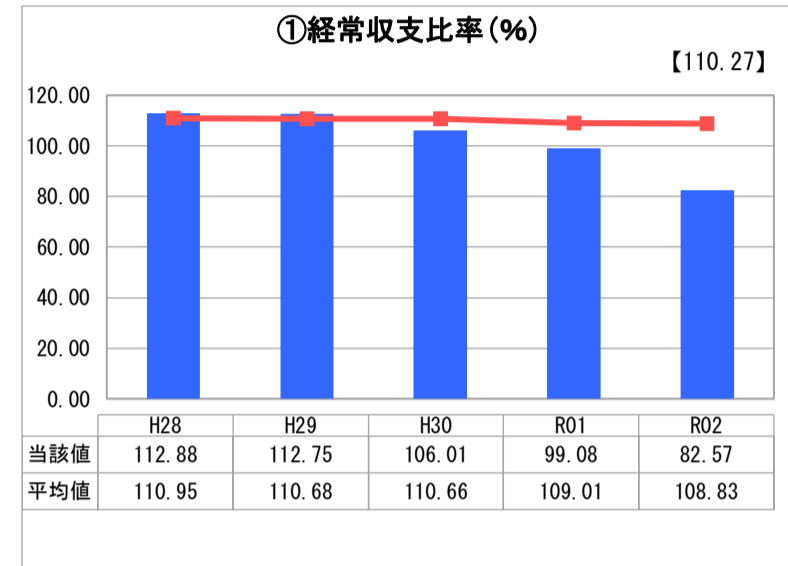
岡山県 備前市

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|--------|
| 法適用 | 水道事業 | 末端給水事業 | A5 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) | |
| - | 88.31 | 98.91 | 2,772 | |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| 33,527 | 258.14 | 129.88 |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km ²) | 給水人口密度(人/km ²) |
| 32,917 | 53.90 | 610.71 |

| グラフ凡例 | |
|-------|--------------|
| ■ | 当該団体値(当該値) |
| — | 類似団体平均値(平均値) |
| □ | 令和2年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性・効率性について、当該年度では人口減少やコロナウイルス感染症による給水収益の減少等の影響により赤字決算となり、①経常収支比率は減少傾向が続いている。⑤料金回収率が悪化している。

②③④⑦の指標については、水準以上を保っている。赤字決算となったが、欠損金はなく、十分耐え得るだけの現金等もあるため、経営についても問題なく行える。

しかし、②累積欠損金比率については、今年度は0%であるが、今後も人口減や節水型機器の普及により給水収益が減少する一方、浄水場等水道施設の維持管理業務委託、老朽化による漏水件数に対する修繕費増、施設更新による減価償却費の増等経費増加により厳しい経営となると見込まれる。

⑥給水原価は、費用の増加と年間総有収水量の低下により年々増加しており、⑤料金回収率の低下に影響を及ぼしている。

⑧有収率は、漏水件数の増加等に伴い、低下傾向が続いているため、漏水調査や管路老朽化診断を実施し改善に努める。

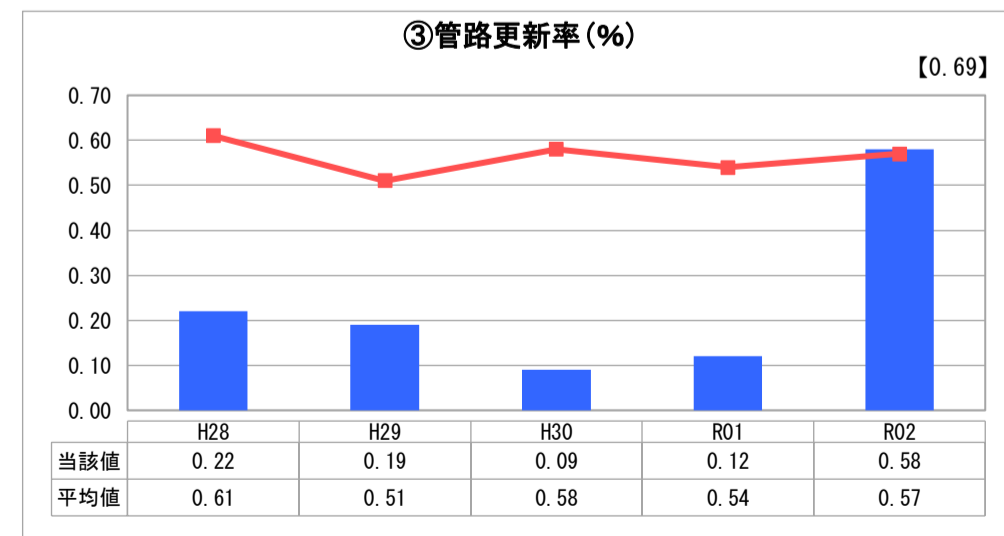
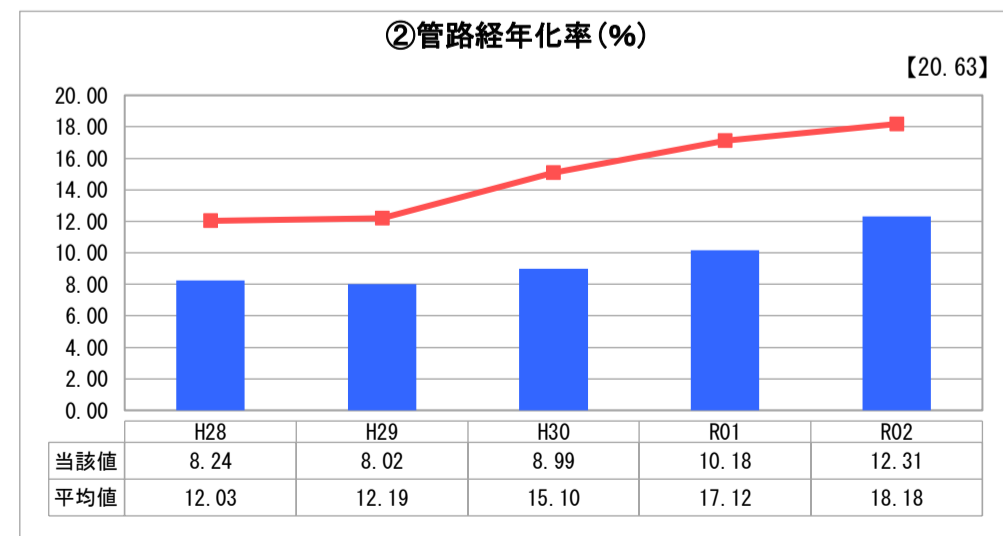
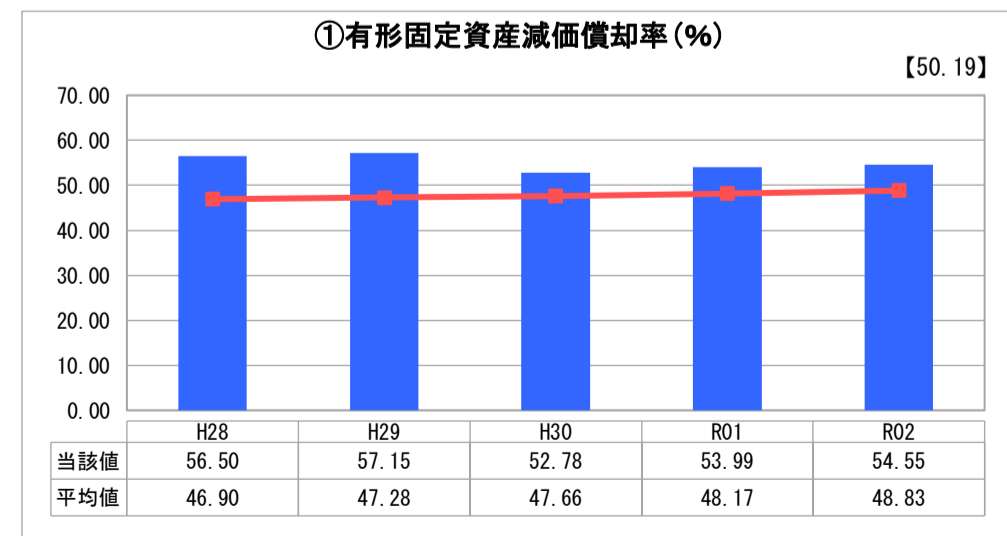
2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、50%を超えており、計画的に施設を更新していく必要がある。

②③管路については、経年化が進んでおり、早急に更新する必要がある。ここ数年は修繕対応が続いていたが、更新計画を見直したことにより当該年度の管路更新率は大幅に向上した。

今後も漏水調査や管路の老朽化診断を実施し優先順位をつながら、効率的に更新を進め、有収率の改善を図っていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

水道事業の経営は、給水収益の減少に対して、減価償却費、委託料、工事請負費等費用増加が続いており、今後も厳しい経営状況となることを見込まれる。収益の増加が見込めない中、より一層の経費節減を進める必要がある。

また、漏水等による有収率の低下から、施設・設備の老朽化が顕著であり、今後は施設の更新も大きな課題となると予想される。このため、更新においては収支のバランスと効率性の観点から、更新箇所を選定を行うなど、計画的・効率的に事業を実施していく必要がある。